

子どもたちと学ぶ自然と文化～いつなつとの自然観察会～

西垣 由佳子, 藤木恭子, 西谷浩子 (但東 野あそびくらぶ いつなつと)



団体の紹介

私たちは兵庫県豊岡市但東町で活動する任意団体「但東 野あそびくらぶ いつなつと」です。二か月に一度、地元の親子の皆さんを対象に、自然観察会や体験活動をおこなっています。但馬の東の端に位置する自然豊かな但東町。一見、穏やかな農村風景ではありますが、課題もたくさんあります。過疎化による人口減少や小学校の閉校、シカの増加による森林被害や農業被害、外来種問題。高齢化がすすみ、自然に寄り添ってきた文化やくらしは、今、静かに消えつつあります。子どもたちがいつか大人になった時、自分たちの育った場所は豊かでとびっきり楽しい場所だった、そんな思い出が原風景となるように、地域に残る自然や文化を子どもたちと一緒に楽しみながら学んでいます。2021年から活動を開始し、活動の輪は広がりつつあります。

こんな観察会をやっています

1. 興味のない人でもちょっと行ってみたいくなるような観察会をめざしています

たとえば、自分の子どもが虫好きだったら、親御さんはアンテナを張り、よりよい機会を子どもに与えることが多いかもしれません。実は、私たちが観察会に来てもらいたいのは、今まで自然にあまり興味のなかった子どもたちです。そういう子どもたちや親御さんをどう惹きつけるか・・・いかに、自然観察会へのハードルを下げ、参加する人の間口を広げられるか。夜な夜な、怪しげで魅力的な内容を考えています。



2. 地域のおじいちゃんやおばあちゃんから昔の暮らしについて話を聞いています

但東町にはまだまだ元気な 90 代のお年寄りがいらっしやいます。高度な藁編みの技術を持った方や、餅つき上手な方たちもたくさんいます。お年寄りから昔の暮らしの話をきいたり、生きものや物の呼び名を教えてもらうことは、地域の自然史を知ることにつながります。聞いた話を観察会で子どもたちに紹介したり、実際に体験してみることも大切です。聞き取り調査は一回や二回では完結しませんので、定期的に続けていきたい活動です。



3. 話はなるべく短く。難しい話はできません

私たちの観察会に来てくれる小学生は低・中学年が中心です。高学年になると習い事やスポーツなどに時間を割く子どもたちが増えるからでしょう。小さな人たちへの説明はなるべく短くして、五感を使った観察を心掛けています。時々、説明が短すぎて雑になるのが課題です。

4. だいたい美味しいものを食べてます

観察会の中では、何かしら食べることが多いです。春はヨモギを摘み、よもぎ餅を作って頬張ります。かまどで新米を炊いたり、囲炉裏で川魚を焼いたり、シカ肉カレー、シカ肉シチュー、シカ肉味噌汁、シカ肉の恵方巻。どうしてシカなのか？それはシカが毎晩、集落に出没するからです。食べながら、但馬の山の現状やシカ肉の栄養価について話をしています。単に、食いしん坊の集まり、ということもあります。



5. 小さな自然再生、はじめました

観察会などで自然を利用するだけでなく、その場所がより良い環境となって、3年後、5年後、子どもたちとさらに楽しい観察ができるように、実験的に自然再生を始めました。地権者に了解を得た上で、山にシカの食害から草本を守る保護柵を作りました。また、漁協の協力を得て、子どもたちと川の中に石を並べ、バープ工を設置しています。どちらもメンテナンスが欠かせませんが、今後どうなっていくのか楽しみです。



いつなつとが大切にしたいこと

それは生物文化多様性です。子どもたちが植物や昆虫の名前を忘れても、その時に感じた「楽しい」「うれしい」「おいしい」「きれい」「きもちいい」という気持ちは、きっと心の中に残っていくと考えてます。自然に興味、関心のある子どもたちが一人でも増えてくれたら、こんなにうれしいことはありません。いつなつとに参加した子どもたちが、自然や文化、環境を大切に思う心を育み、次の世代に繋げていってくれることを願っています。

